

岡山県におけるスポーツ相談室の活動状況について

○迫間 巧将¹⁾, 阿部 信寛¹⁾, 千田 益生¹⁾, 尾崎 敏文¹⁾, 乍 智之²⁾,
山下 裕之²⁾, 東山 人士³⁾, 平谷 昌樹³⁾

¹⁾ 岡山大学大学院 整形外科

²⁾ 岡山県スポーツ指導者協議会

³⁾ 岡山県広域スポーツセンター

岡山県では、岡山県体育協会が主体となって1974年からスポーツ相談室を開設し、県民のスポーツ活動をスポーツ医・科学的な側面から支援してきた。現在は県スポーツ指導者協議会や県広域スポーツセンター等と連携することで、更なる生涯スポーツの推進を図っている。スポーツ相談室は隔週で夕方4時から6時の2時間開設しており、新聞およびインターネット上で情報を流している。スタッフは医師1名、アスレチックトレーナー（以下AT）2名であり、問診票に記入の後、医師が診察し問題点を把握してアドバイスを行い、必要に応じてATによりストレッチやテーピングなどコンディショニングの指導を行う。あくまでスポーツ相談であり、医学的な治療が必要な症例は病院の受診をすすめている。

今回、2002年4月から2007年3月までの5年間におけるスポーツ相談室の活動状況についてまとめた。5年間の総来訪者はのべ382名であり、そのうち初回来訪者は289名（男性184名、女性105名）であった。岡山市内在住は175名であり、市外からの来訪者は114名と約40%を占めていた。来訪のきっかけは、新聞上で見た、あるいは部活の指導者、知人の紹介が多かった。来訪者の内訳は、小学生26名、中学生55名、高校生74名、大学生25名、一般109名であり、スポーツは野球56名、陸上47名、バスケットボール28名、サッカー18名、ゴルフ17名、テニス12名、他111名であった。障害部位は膝関節62例、腰部34例、肩関節32例、足部32例、肘関節30例、足関節27例、他72例であった。

スポーツ相談室の現状と今後の課題について考察する。